

企業名：日清オイリオグループ

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

当社が目指す姿は、当社のコアコンピタンスである油脂をさらに強みとして強化するだけでなく、他の食品メーカーや素材メーカーと協働し、食の新たな機能を生み出すプラットフォームの役割を担い、多様な価値を創造し、人が生きるために必要なエネルギー、“生きるエネルギー”を全ての人にお届けするような会社になることである。

これらの目標を達成するための注点すべき6個の重点領域が挙げられていて、どれも目標に大きく関わっている。特に、地球環境問題に取り組むことは、植物資源が事業の根幹である当社にとって取り組むべき目標であり、重点領域として挙げられ具体的な取り組みが数多く挙げられて、当社の目指す姿が理解しやすかった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

国内においての当社のブランド力は油脂事業において、大きなアドバンテージになっている。特に、国内家庭用市場では、2020年度に1668億円と過去最大規模の市場拡大に成功している。しかし、世界において競争優位性がどれだけあるかは理解することはできなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上の競争優位性を持続するために、今までの事業競争力の基盤であった各拠点の強みをさらに磨き、成功事例をマレーシアもふくめた各拠点、グループ全体に展開することで、市場で更なる影響力を強めようとしている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

注点すべき重点領域として、人材マネジメントが挙げられていて、当社は多様な人材を受け入れる環境を整え、個人個人がやりがいを感じられるように取り組むとしている。これらの取り組みが個人の人的資本の価値向上につながるかは理解しかねるが、今後売り上げを拡大するために国内、国外に市場を拡大していく上で、それらの活動に関わることになればたとしたら、自分自身にとって大きな経験になり価値向上につながるのではないかと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

当社は、事業の展開エリアはグローバルに拡大し、グローバルトップの油脂ソリューション企業になることを目標としている。その上で、ターゲットエリアを東南アジア、欧州、北米と定めているが、研究開発の拠点はスペイン、マレーシア、日本であり、北米に向けてどのようにシェア率を拡大するのが理解しにくかった。

人材戦略として、主要な戦略を述べた後に具体的な施策を述べている。例を挙げると、「働きがいのある会社・職場づくり」という主要戦略を達成するための施策として、「エンゲージメント向上に向けた諸制度、環境づくり」、「働きがいにつながる役割・成果・専門性などを重視した処遇制度への移行」が挙げられている。しかし、これらの施策は、抽象的でありもう少し具体的な取り組みを直接書いた方が良かったと感じた。